

# 香川県の気象災害(その1)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概 要
2月10日 ~12日	強風、大雪	10日夜から11日にかけて前線を伴う低気圧が四国沖を東進し、その後冬型の気圧配置となった。このため10日夜から12日にかけて断続的な降雪となり、高松の積雪は11日09時で5cm、12日09時で2cmを観測した。
		11日は、高松自動車道と瀬戸中央自動車道で2時20分から12時40分まで全線通行止めとなった。12日は、高松自動車道で4時から12時40分にかけて、一部区間が通行止めとなった。このため、高速バスが224便運休となった。高松空港では、11日に8便が欠航し7便が最大3時間30分遅れ、2便が行き先を変更した。10日から12日にかけて、雪の影響とみられるスリップ事故が47件発生し、2名が軽傷を負った。JR瀬戸大橋線は、強風により12日9時27分から11時33分にかけて坂出(香川県坂出市)・宇多津(香川県宇多津町) 児島(岡山県倉敷市)間で断続的に運転を見合わせたため、上下20本が運休や部分運休し、90本に最大1時間25分の遅延が発生した。(高松空港事務所、香川県警察本部、JR四国、四国新聞による)
2月14日 ~15日	大雪	14日前線を伴う低気圧が四国沖を東進したため、14日から15日にかけて断続的な降雪となり、高松の積雪は14日21時で3cm、15日09時で2cmを観測した。
		高松自動車道は、雪の影響で14日13時30分から大野原IC(観音寺市)以西が、14時30分からは高松西IC(高松市)以東が通行止めとなったため、高速バスが約190便運休した。高松空港では、14日13便が欠航し3便が最大約1時間30分遅れ、東京発高松行きの2便が到着地を変更した。14日から15日にかけて雪の影響とみられるスリップ事故が65件発生し、6名が軽傷を負った。(高松空港事務所、香川県警察本部、四国新聞による)
4月8日	濃霧	8日から9日にかけて前線がゆっくり南下したため、8日昼前から9日明け方にかけて断続的な降雨となった。このため、局地的に濃霧が発生した。
		高松空港では、濃霧による視界不良のため、8日19時45分羽田発高松行き日本航空1415便が羽田空港に引き返した。(高松空港事務所、四国新聞による)
4月19日	強風	18日から19日にかけて、寒気を伴った気圧の谷の影響で局地的に強風となった。
		JRでは、19日13時43分頃瀬戸大橋上の最大瞬間風速が規制値の25メートルを超えたことから、瀬戸大橋線の坂出(香川県坂出市)・宇多津(香川県宇多津町) 児島(岡山県倉敷市)間で、13時45分頃から15時頃にかけて断続的に運転を見合わせた。このため快速マリンライナー上下4本が運休し、16本に最大55分の遅延が発生した。(JR四国、四国新聞による)
5月12日	濃霧	西日本に停滞していた前線と前線上に発生した低気圧が山陰沿岸を東進したため、10日未明から12日夜遅くにかけて断続的な降水となった。このため、局地的に濃霧が発生した。
		高松空港では、濃霧による視界不良のため、12日7時25分羽田発高松行き全日空531便など3便に最大1時間の遅延が発生した。(高松空港事務所、四国新聞による)
5月17日	雷	東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われ晴れていたが、上空に寒気が流入し大気の状態が不安定となったため、局地的に雷が発生した。
		17日15時45分頃、小豆島上空約5000メートルを飛行していた羽田発高松行き日本航空1409便が落雷に遭い機体に損傷を受けた。このため、折り返しの羽田行き同1410便が欠航した。(高松空港事務所、四国新聞による)

## 香川県の気象災害(その2)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概 要
5月28日 ～30日	大雨、強雨、 強風、波浪	<p>5月22日03時にカロリン諸島付近で発生した台風第2号は、発達しながら西北西に進み26日15時にはフィリピンの東で中心気圧920hPa、中心付近の最大風速55m/sの猛烈な勢力となった。その後28日から29日にかけて南西諸島を北上し29日15時には四国沖で温帯低気圧に変わり、紀伊半島から東海地方沿岸を東北東進した。一方、四国の南海上には梅雨前線が停滞しており、台風の接近に伴い活動が活発化した。このため香川県では全域で大雨となり、竜王山では降り始めの26日12時から30日4時までの総雨量が313.5ミリに達した。また、5月29日の日降水量は全観測所で5月としての観測史上1位を更新した。</p> <p>『人的被害』 坂出市川津町:負傷者(軽傷)81歳女性1名、自宅前用水路清掃中に転倒し、背中を打撲。 三木町:負傷者(軽傷)67歳男性、用水路で土のう積み作業中に用水路に転落、頸椎捻挫。 『住家被害』 高松市庵治町床下浸水1棟 坂出市小山町床下浸水1棟 『土砂災害』 三豊市詫間町(箱地区)1件、三豊市高瀬町(二宮地区)1件 さぬき市寒川町石田東1件(門入ダム上流約50平方メートル) 高松市亀水町1件(香川県総合運動公園西側長さ約120m、幅約20m) 『公共土木施設被害』 道路損壊25ヵ所、河川被害16ヵ所、公園被害1ヶ所(推定被害金額合計約1億8000万円) 道路冠水9ヶ所 『農林水産被害』 麦類の倒伏(253ha、推定被害金額約9600万円) 野菜、果樹の被害(推定被害金額約3900万円) 『交通障害』 鉄道:(JR四国管内)7路線の一部区間で運転見合わせ 29日運休219本 30日運休17本、遅延2本 (高松琴平電鉄)線路上の木の枝除去のため運転見合わせ 29日運休6本 高松自動車道:29日引田(東かがわ市)～鳴門(徳島県)間、さぬき豊中(三豊市)～大野原(観音寺市)間で一時通行止め 航空便:視界不良により、28日欠航6便、遅延8便、29日欠航2便、遅延2便 高速艇:29日欠航17便 道路通行規制:落石、道路冠水、雨量による規制等により、45ヵ所で通行止め等(香川県、高松空港事務所、JR四国、四国新聞、毎日新聞による)</p>
6月10日	濃霧	<p>9日から10日にかけて、四国の南海上に停滞していた梅雨前線の活動が弱まり、南から暖かく湿った空気が流入した。また、10日から11日にかけて次第に梅雨前線が活発となり西日本に停滞したため、10日昼前から11日昼過ぎにかけて断続的な降水となった。これらの影響により、局地的に濃霧が発生した。</p> <p>10日7時35分頃、香川県香川郡直島町井島の西方沖約1800m付近で、ケミカルタンカーと漁船が衝突したが、けが人や油の流出はなかった。 高松港では、10日1時、濃霧で視界が500メートル以下となったため、フェリー会社10社でつくる旅客船団体が停船勧告を発令し同日8時30分に解除した。このため、高松(香川県高松市) 宇野(岡山県玉野市)間のフェリーなど33便が欠航し、4便に最大30分の遅延が発生した。 高松空港では、10日濃霧のため視界不良となり、羽田発高松行き日本航空最終便が羽田に引き返したため、11日7時40分発の折り返し便が欠航となった。(玉野海上保安部、高松空港事務所、四国新聞による)</p>

## 香川県の気象災害(その3)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概要	要
6月1日～ 10月2日	高温(長期)	<p>6月の気温は、上旬から中旬にかけては平年より低かったが、下旬になって一時的に高気圧に覆われ晴れた日が多くなったことから平年よりかなり高くなった。</p> <p>7月は、8日頃平年に比べ早く梅雨明けした後、太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、中旬の終り頃から、台風や気圧の谷の影響などで曇や雨の降る日が多くなった。7月の県内のアメダス観測所の平均気温は、内海では平年に比べて高かったがその他の観測所では平年並の気温となった。(香南は平年との比較なし)</p> <p>8月は、中頃まで太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、中旬の終り頃から前線や気圧の谷などの影響で曇や雨の日が多くなった。8月の県内のアメダス観測所の平均気温は、高松と内海で平年に比べて高かったが、その他の観測所では平年並みの気温となった。(香南は平年との比較なし)</p> <p>9月は、上旬の前半と中旬の後半から下旬の始めにかけて台風や暖湿気の影響で雨や曇りの日が多かったが、その他は高気圧に覆われ晴れる日が多かった。9月の県内アメダス観測所の平均気温は、高松、内海、引田で平年に比べ高かったが、その他の観測所では平年並みの気温となった。(香南は平年との比較なし)</p>	<p>香川県内では、6月中に熱中症の疑いにより81人が緊急搬送され、その内3人が重症であった。</p> <p>7月中に熱中症の疑いにより149人が緊急搬送され、その内4人が重症であった。</p> <p>8月中に熱中症の疑いにより191人が緊急搬送され、その内7人が重症であった。</p> <p>9月1日から10月2日までに熱中症の疑いにより47人が緊急搬送され、その内3人が重症であった。</p> <p>(速報値)(香川県危機管理課、四国新聞による)</p>
6月12日～ 13日	濃霧	<p>四国の南海上に停滞していた梅雨前線上に低気圧が発生し、12日から13日にかけて四国沿岸を東進したため、12日明け方から13日未明にかけて断続的な降水となった。このため局地的に濃霧が発生した。</p>	<p>高松空港では、12日濃霧のため視界不良となり、羽田発高松行き全日空最終便が羽田に引き返したため、13日7時40分発の折り返し便が欠航となった。(高松空港事務所、四国新聞による)</p>
6月16日～ 18日	濃霧	<p>16日から21日にかけて梅雨前線が四国沿岸に停滞したため、16日未明から21日夜のはじめ頃にかけて断続的な降水となった。このため局地的に濃霧が発生した。</p>	<p>高松空港では、濃霧のため視界不良となり、16日9時55分高松発羽田行き日本航空1404便が約40分遅れたほか、17時40分韓国・仁川空港発高松行きアジアナ航空166便が運航を見合わせ、翌日(17日)に運航した。また、18日には14時40分羽田発高松行き日本航空1409便が伊丹空港に、15時40分羽田発高松行き全日空997便が岡山空港にそれぞれ行き先を変更したため、それぞれの折り返し便が欠航となった。(高松空港事務所、四国新聞による)</p>
6月22日～ 7月3日	赤潮	<p>6月の下旬になって、梅雨前線が日本海まで北上し太平洋高気圧に覆われ晴れの天気が多くなった。6月下旬の平均気温は、県下全てのアメダス地点で平年を大きく上回り(平年差3.1～4.4)、日照時間は平年に比べて多く(平年比184～207%)、降水量は平年に比べ少なかった(平年比13～56%)。</p>	<p>直島町北部の漁場で、29日午後から30日午前にかけて、養殖カンパチ317匹が死んでいるのが確認された。その後被害は広がり、6月29日から7月2日正午までの被害は計749匹となり、被害金額は推定約155万円となった。原因はシャットネラ(有害赤潮の原因となるプランクトン)とみられ、赤潮による養殖業の被害が出たのは2004年7月以来。(香川県水産課、四国新聞による)</p>

## 香川県の気象災害(その4)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概 要
7月1日	濃霧	<p>1日から2日にかけて、気圧の谷や上空の寒気の流入により大気の状態が不安定となったため、1日未明から2日昼前にかけて断続的な降水となった。このため局地的に濃霧が発生した。</p> <p>高松空港では、濃霧による視界不良となり、1日8時羽田発高松行き日本航空1403便が伊丹空港に行き先を変更し、折り返し便が欠航となった。(高松空港事務所、四国新聞による)</p>
7月8日	濃霧	<p>日本海に停滞する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流入したため、局地的に濃霧が発生した。</p> <p>高松港では、8日5時45分濃霧で視界が500メートル以下となったため、フェリー会社10社でつくる旅客船団体が停船勧告を発令し同日8時45分に解除した。このため、高松(香川県高松市) 宇野(岡山県玉野市)間のフェリーなど36便が欠航し、4便に最大2時間30分の遅延が発生した。また、三豊市では須田～栗島～宮の下間で6便が欠航し、丸亀市や多度津町でフェリー等に遅延が発生した。(四国運輸局、四国新聞による)</p>
7月18日 ～20日	強風、大雨、 強雨、波浪	<p>7月12日15時に南鳥島近海で発生した台風第6号は、強い勢力を保ったまま南大東島の東海上を北上し、19日には四国沖で東に向きを変え20日0時30分に徳島県南部に上陸した後、10時頃潮岬付近を通過した。この台風により香川県では、東讃を中心に大雨となり、東かがわ市引田では、降り始めの18日01時から20日09時までの総雨量が206.5ミリに達した。また全域で強風となり、最大瞬間風速は、東かがわ市引田で28.2メートル、高松で24.1メートルを観測した。</p> <p>【被害状況】 『人的被害』 高松市屋島西町では、67歳の女性が屋根のボードの下敷きとなり左上腕骨折の重傷を負った。このほか歩行中や自転車走行中に強風にあおられ転倒するなど11人が負傷した。(高松市:重傷2人・軽傷5人、丸亀市:軽傷1人、坂出市:軽傷3人、三豊市:軽傷1人) 『住家被害』 一部損壊2棟:坂出市福江町1棟(倒木による民家屋根一部損壊19日17時17分)、小豆島町池田1棟(倒木による民家屋根、壁一部損壊20日00時30分) 床下浸水1棟:坂出市檀石(20日02時26分) 『非住家被害』 全壊2棟:高松市屋島西町1棟、坂出市大家富町1棟 一部損壊2棟:高松市屋島西町1棟、坂出市与島町1棟 床下浸水1棟:坂出市檀石 『交通障害』 鉄道:JR四国では、19日13時過ぎから四国管内全線で運転を見合わせたため、901本(JR四国管内)が運休。高松琴平電鉄では、19日16時30分までに全線で運転を見合わせたため、170本が運休 航空便:欠航便32便、リターン便1、タイラート便1便、遅延2便 海上交通:県内各地を発着するフェリー、高速艇など474便が欠航 国道、県道等で、落石、倒木、道路冠水、雨量による規制等のため25ヵ所で通行止め等 『公共土木施設被害』 道路損壊3ヵ所、河川被害2ヵ所(推定被害金額合計約1億2150万円) 『農林水産被害』 水稻の穂ずれや野菜、果樹の被害(1502ha)、農林水産施設の被害等合わせて推定被害金額合計1億2900万円 『電力障害』強風による配電線の断線などで、11631戸で停電。 『その他の被害』文化財被害9件 (香川県、四国運輸局、高松空港事務所、四国電力、四国新聞による)</p>

# 香川県の気象災害(その5)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概要	要
7月25日	雷	24日から26日にかけて、上空の寒気や南からの暖かく湿った空気の影響により大気の状態が不安定となった。このため25日局地的に雷が発生した。	25日15時5分頃、落雷により電柱の配電設備が損傷したため、高松市の川島東町、川島本町、十川西町、池田町の計4524戸で停電となり、16時55分頃までに復旧した。(四国電力、四国新聞による)
8月2日	強雨	太平洋高気圧に覆われていたが南からの暖かく湿った空気の流入や強い日射の影響により、大気の状態が不安定となった。このため、局地的に大雨となった。	観音寺市では、南町や元町で合計15棟の床下浸水が発生した。(香川県危機管理課、四国新聞による)
8月9日～14日	乾燥	太平洋高気圧に覆われ晴れた日が続き相対的に空気が乾燥していた。ただし、乾燥注意報発表の基準までは達していなかった。	直島町井島で山林火災発生(覚知時刻9日14時40分) 9日から14日にかけて、直島町消防団、玉野市消防本部、消防団(岡山県)、高松市消防局が陸上から消火活動を行うと共に、香川県、徳島県、高知県、岡山県の各防災ヘリコプターと自衛隊のヘリコプターが空中散水を行った結果、14日17時に鎮火を発表した。今回の林野火災により、島の9割近い約237ヘクタールの林野を焼失した。(香川県危機管理課、四国新聞による)
8月13～14日	雷	13日から14日にかけて太平洋高気圧に覆われ天気が良かったが、日射の影響により大気の状態が不安定となった。このため局地的に雷が発生した。	13日17時20分頃落雷のため、まんのう町の勝浦、川東、造田、中通の計910戸で停電となり、同日18時40分頃までに復旧した。 14日12時20分頃から落雷のため、高松市の池田町や中間町、東かがわ市の引田などで合計2685戸(高松市2061戸、東かがわ市624戸)が断続的に停電となり、同日18時5分頃までに復旧した。(四国新聞、四国電力による)
9月2日～3日	大雨、強雨、強風、波浪	8月25日09時にマリアナ諸島近海で発生した台風第12号は、日本の南海上をゆっくりと北上し、強い勢力を保ったまま9月3日10時前に高知県東部に上陸した。上陸後もゆっくり北上を続け、3日13時頃から17時頃にかけて香川県を北上し、18時頃に岡山県南部に再上陸、中国地方を北上して4日未明に山陰沖に抜けた。このため、香川県では降り始めの9月1日06時から5日06時までの総雨量が、香南(高松空港)で477.5ミリ、綾川町滝宮で335.0ミリを観測するなど各地で記録的な大雨となった。また、最大瞬間風速は、東かがわ市引田で南東の風27.4メートル、高松で北東の風24.5メートル、小豆島町内海で東の風23.8メートルを観測した。	『人的被害』 丸亀市飯山町上法軍寺の用水路で61歳女性が溺死した他、丸亀市在住の74歳の女性が宇多津町で、さぬき市在住の84歳の女性が徳島県鳴門市沖合の海上で、それぞれ水死体で発見された。また、高松市や小豆島町では、歩行中やバイク等走行中に強風にあおられ転倒し3人が負傷した。(高松市:軽傷2名、小豆島町:重傷1名) 『住家被害』 土砂崩れや倒木等のため9棟で一部損壊の被害が発生した(丸亀市2棟、三豊市1棟、土庄町1棟、綾川町5棟)。また、4市5町で床上浸水(9棟)や床下浸水(166棟)の被害が発生した。 『土砂災害』 1市2町で5件(丸亀市1件、まんのう町1件、綾川町3件)の土砂災害が発生した。 『公共土木施設被害』 道路97箇所、河川178箇所、海岸3箇所、砂防2箇所、港湾1箇所、公園2箇所被害が発生し、推定被害金額は合計約14億3000万円。 『農林水産被害』 水稲や野菜等で2849haの被害が発生し、園芸用施設(127棟)や農地農業用施設(229箇所)、林業用施設(57箇所)、水産関係施設(7箇所)でも被害が発生した。 『交通障害』 JR四国や高松琴平電鉄では、2日～3日にかけて運転を見合わせたため1350本(JR四国管内1238本、高松琴平電鉄112本)が運休した。県内各地を発着するフェリー等は687便が欠航し、高松空港では、30便が欠航した。自動車道や国道・県道では、倒木や道路冠水等のため58箇所通行止めとなった。 (香川県、四国運輸局、高松空港事務所、四国新聞による)

# 香川県の気象災害(その6)

平成23年(2011年)

月日	気象現象名	概要
9月16日 ～21日	大雨、強雨、 強風、波浪	<p>9月13日21時に沖の鳥島近海で発生した台風第15号は、日本の南海上をゆっくりと西北西進し、沖縄の東海上で複雑な動きをしながら停滞した。これに伴い、香川県では16日から17日にかけて、南海上から台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み、東讃や小豆を中心に200mmを超える大雨となった。その後、台風は北上を開始し、20日に種子島の南東海上を北東に進み、21日朝には速度を上げながら和歌山県潮岬沖を通過し、同日14時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、さらに東日本を北東進して同日夜には三陸沖に抜けた。このため、香川県では19日から21日にかけて、南海上からの暖かく湿った空気と台風を取り巻く雨雲の影響で再び東讃や小豆を中心に大雨となった。降り始めの16日11時から21日12時までの総雨量は、東かがわ市引田で803.0mm、小豆島町内海で429.0mmに達した。</p> <p>『人的被害』 21日6時頃坂出市王越町で47歳女性が足を滑らせ河川に転落し軽傷を負った。</p> <p>『住家被害』 16日～17日にかけて、3市1町で床上浸水(14棟)や床下浸水(166棟)の被害が発生した。また、19日～21日にかけては、小豆島町で屋根の一部が損壊する被害があったほか、3市3町で床上浸水(11棟)や床下浸水(157棟)の被害が発生した。</p> <p>『土砂災害』 20日～21日にかけて、1市2町で6件(高松市4件、土庄町1件、小豆島町1件)の土砂災害が発生した。</p> <p>『公共土木施設等被害』 道路87箇所、河川128箇所、砂防2箇所被害が発生し、推定被害金額合計約10億4900万円。</p> <p>『農林水産被害』 水稲や野菜等179haで被害が発生し、農業関係施設(103箇所)、林業関係施設(13箇所)、水産関係施設(1箇所)でも被害が発生した。</p> <p>『交通障害』 JR四国管内では、841本の運休が発生した。県内各地を発着するフェリー等49便が欠航し、高松空港では14便が欠航し1便が引き返した。自動車道や国道・県道では、路肩崩壊や冠水のため74箇所通行止めとなった。 (香川県、四国運輸局、高松空港事務所、四国新聞による)</p>